



にじ
横山和雄 議員
が問う！

大雨時の内水氾濫対策は

できているのか!!

水害に強いまちづくりについて

近年、各地で都市化が進んだことにより、大雨や突然のゲリラ豪雨などによって排水機能が追いつかず冠水すること、いわゆる内水氾濫が増えてきている。市内の内水氾濫多発箇所において、雨水が越水し、住宅・店舗等が浸水しないよう確固たる対策を取るべきではないかと考え、質問する。

Q. 小泉川の河川改修工事の進捗状況について問う。

A. 県の事業により、黒木地区の鎗町橋から和田地区の第二和田橋までの約3.3kmにわたる築堤・

河道掘削工と護岸工、4つの橋梁架替工事を実施している。

築堤・河道掘削工については、令和6年度中の完成を見込んでいる。護岸工は一ノ堰橋から第二和田橋までの区間で始まり、一ノ堰橋から市道小泉橋までは令和5年度中、市道小泉橋から第二和田橋までは令和6年度中に完成予定である。また、未着手の区間についても令和6年度の完成を目指して準備を進めている。橋梁架替工事は、①市道小泉橋、②第三本笑橋、③第二和田橋の下部工が完成しており、上部工は①、③が令和5年度中、②が令和6年度の完成を予定している。未着手の④県道新小泉橋についても令和6年度の完成を目指して準備を進めている。

市は引き続き、国及び県に対し、河川改修の早期実現を強く要請していく。

Q. 内水氾濫対策について問う。

A. 市では内水氾濫対策として、令和2年度に排水ポンプ車2台を導入し、国土交通省東北地方整備局福島河川国道事務所との合同訓練や、市総合建設業組合との市内排水訓練を行っている。また、必要に応じて国からの排水ポンプ車の迅速な派遣も受けられる体制を構築している。

市は、今後も継続的な訓練や都市下水路の清掃、雨水排水施設のメンテナンスを定期的に実施していく。

その他の質問

○学校教育について



動画は
↑こちらから↓



そうま市民の会
浦島勇一 議員
が問う！

相談体制と支援策を

万全に!!

新型コロナウイルスワクチン接種に伴う後遺症について

早いもので新型コロナウイルスにおいては、4年が経過しようとしているが、関係各位の今日までのご労苦に敬意と感謝を申し上げます。この先、予断を許さぬ状況にあるかと思うが、市民の生命と健康の維持・保全のために、改めてよろしくお願いするとともに、現状等について質問する。

Q. 後遺症状の状況調査について問う。

A. 新型コロナウイルスワクチン接種後の健康被害について、市新型コロナウイルス接種メディカルセン

ター及び県と連携し対応している。これまで市民4名が健康被害を訴え、市に対し、予防接種法に基づく国の予防接種健康被害救済制度の申請を提出している。

この制度はワクチン接種後の健康被害があった場合、それがワクチンによるものであるかを国が審査し、認定されれば医療費等の給付が行われるもので、提出された申請は、市長、医師4名、県相双保健福祉事務所長の6名で構成される市予防接種健康被害調査委員会で審議された結果、全員の申請が妥当と結論づけられ、令和5年8月に国へ進達している。

Q. ワクチン接種後、症状を有する方々への相談窓口と支援制度について問う。

A. 市のコールセンターにおいて、健康被害に関する相談を受け付けており、また、市のホームページでも情報を周知している。

さらに、県の新型コロナウイルス副反応コールセンターや厚生労働省の新型コロナウイルスコールセンターの案内チラシをワクチン接種時に配布し周知している。

接種後に気になる症状があれば、これらのコールセンターやかかりつけ医への相談を勧めている。また、予防接種健康被害救済制度の周知も必要であるため、引き続き医師会や医療機関に協力を依頼し、周知に努めていきたいと考えている。

その他の質問

○R6年度行政運営計画について



動画は
↑こちらから↓



新時代そうま
山中宣明 議員
が問う！

こども達のボトムアップが
一番必要と思うが、どのように
進めて行くのか!!

リーディングスキルテストの現状と今後の取り組みについて

リーディングスキルテスト事業を通して、学力向上等の成果を実感しているが、これからの積み上げと事業継続を今後どのように進めていくのか、質問する。

Q. リーディングスキルテスト事業を実施しての効果や、教職員、こども達の反応をどう捉えているのか。

A. 市教育委員会では、リーディングスキルテストの結果分析の他に、指導主事による学校訪問での情報収集、公立学校研究指導員会による各校の実践発表の内容、リーディングスキルに関する研修会や

授業研究発表会後のアンケートから効果と教員や児童生徒の反応を確認している。

Q. 今後のリーディングスキルテスト事業への取り組みについて問う。

A. 市教育委員会は、教員のリーディングスキル向上を目指し、複数の研修を実施し授業改善に取り組んでおり、その結果、児童生徒の読解力が伸びてきている。

具体的な成果として、教員においては、テストの結果を基に、子どもがどの部分でつまづきやすいかを予測し、教材研究を行う習慣が定着している。

児童生徒においては、黒板の文字を書く際に、教師と児童生徒が授業の目当てや課題を一緒にスピードで書き終える「共書き」が定着し、書く速さや書く量が増えてきている。また、文を読むときの基本である「主語・述語」や指示語である「これ・それ」などを意識して、教科書や問題文をじっくり正確に読む児童生徒が増えている。

全国学力・学習状況調査の結果でも、これらの取り組みの効果が現れており、全国平均を下回っていた小学6年生の国語の平均正答率が、令和5年度は全国・県平均を上回っている。

これらは子どもたちの生きる力の育成に寄与し、教員の研鑽の結果であり、今後は他教科にも取り組みを広げ、さらなる実践を積み重ねていく考えである。

その他の質問

○ICT教育の現状と課題について



動画は
↑こちらから↓